

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

もやし栽培排水からの排熱回収再利用による
省エネルギー事業

排出削減事業者名：オシキリ食品株式会社

排出削減事業共同実施者名：公益財団法人北海道環境財団

その他関連事業者名：

申請日：2019年5月24日

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	オシキリ食品株式会社
排出削減事業を実施する事業所 (複数の事業所で実施する場合、行を挿入し全事業所を記載すること)	
事業所名	オシキリ食品株式会社当別工場
住所	北海道石狩郡当別町若葉 27 番地 62
排出削減事業共同実施者 (国内クレジット保有予定者) (複数の排出削減事業共同実施者がいる場合、行を挿入し全ての共同実施者を記載すること)	
排出削減事業共同実施者名	公益財団法人 北海道環境財団

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

もやし栽培排水からの排熱回収再利用による省エネルギー事業

2.2 排出削減事業の目的

もやし栽培時に於ける散水後の排水熱を専用排熱回収装置により回収し、回収した熱をもやし栽培に還元し、もやしの発芽、育成に使用する化石燃料を削減させ、CO2 削減を達成する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

現在は化石燃料を利用し加温の主体エネルギーとしているが、もやし栽培時に発生する発芽育成熱を散水排水を通して、もやし栽培工場専用に設計された排熱回収装置に依って回収し、井戸水の加温に還元させる。本事業によって今迄化石燃料による単一の加温手段から植物の発芽育成熱を利用した複合的手段に移行でき、CO2 削減を達成することを目的とする。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

変更項目なし

2.6 排出削減事業に関わる設備（詳細）

（排出削減事業実施前の設備）

設備名称(メーカー・型番)	重油焚ボイラー（荏原ボイラー株式会社 ST-1500K-D）
台数	2台
設備導入時期	2005年2月
法定耐用年数	15年
直近の法定検査受審日	2010年10月
設備効率	80.8%（高位発熱量ベース）

設備名称(メーカー・型番)	重油焚ボイラー（荏原ボイラー株式会社 ST750K-D）
台数	2台
設備導入時期	2005年3月
法定耐用年数	15年
直近の法定検査受審日	2010年10月
設備効率	80.8%（高位発熱量ベース）

（排出削減事業場所の画像）



（排出削減事業実施後の設備）

設備名称(メーカー・型番)	HR型排熱回収装置（大生機械㈱、HR-0714）
法定耐用年数	15年
設備効率	—

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。
2011 年 4 月 1 日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2017 年 1 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

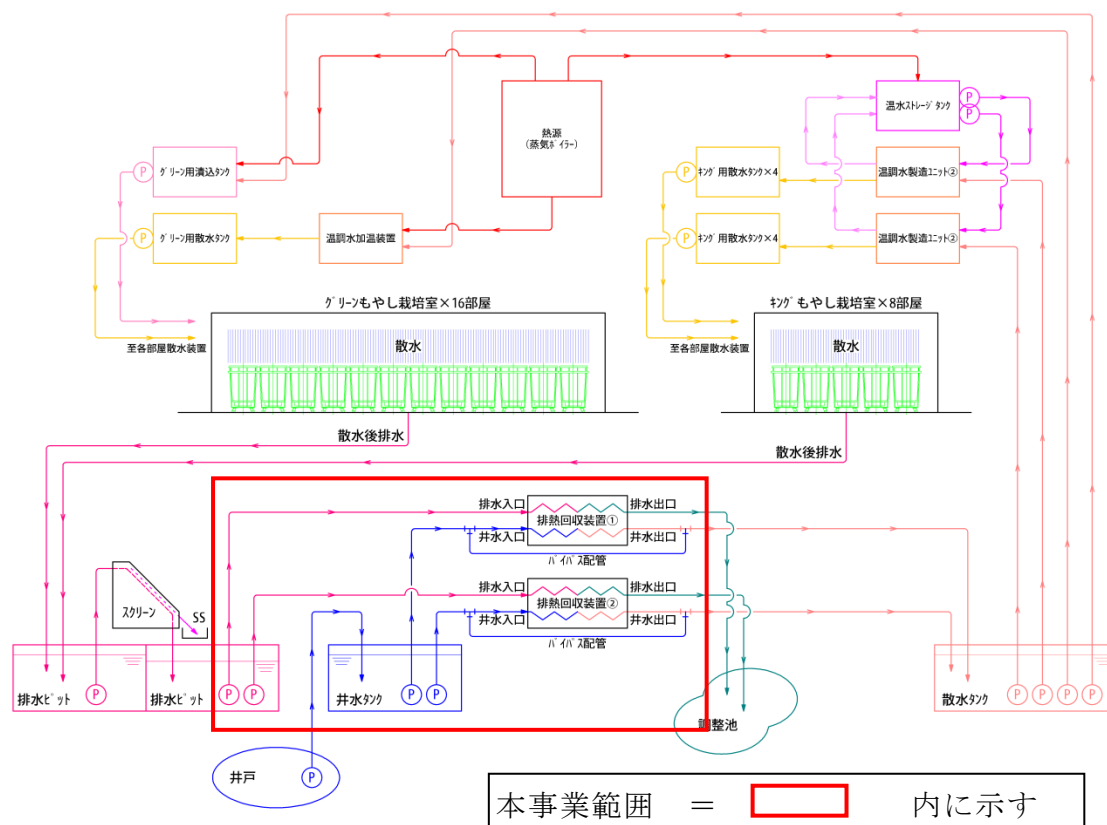
方法論番号	方法論名称
018-A	回収した未利用の排熱への熱源の切り替え

4.2 活動量

特記事項なし

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、排熱回収装置等である。事業範囲について下記の概要図内に示す。また、対象設備については、「2.6 排出削減事業に関わる設備（詳細）」に示す。



5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更あ る場合、) 変更理由	記録責任者
$Q_{\text{heat,PJ}}$	事業実施後使用熱量	GJ	31,271.6	積算熱量計による計測	—	清水 寛
ε_{BL}	事業実施前の熱源機器の効率	%	80.8	カタログ値	—	清水 寛
EL_{PJ}	事業実施後電力使用量	kWh	534,749	ポンプ定格容量と稼働時間から算定	—	清水 寛
CF_{fuel}	燃料の単位発熱量あたりの 炭素排出係数	tCO ₂ /GJ	0.0708	デフォルト値	—	清水 寛
$CF_{\text{electricity,t}}$	電力の炭素排出係数	Kg-CO ₂ /kWh	0.516 (2016) 0.496 (2017) 0.496 (2018)	デフォルト値	—	清水 寛

6 モニタリング体制

排出削減事業計画 7.2 参照

6.1 モニタリング活動担当者・責任者

モニタリング活動担当者氏名	清水 寛	部署・役職名	総務部長
排出削減事業担当者氏名	清水 寛	部署・役職名	総務部長

6.2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順 (該当手順の無い場合、その理由を記載すること)	QA/QC 責任者
活動量		
$Q_{\text{heat, PJ}}$	<ul style="list-style-type: none"> 積算熱量計による連続計測。計測データは電子媒体で記録・管理を行う。 	清水 寛
ϵ_{BL}	<ul style="list-style-type: none"> メーカー資料 (カタログ) の値を確認する。 	清水 寛
EL_{PJ}	<ul style="list-style-type: none"> ポンプ定格容量と稼働時間により算出する。 	清水 寛
単位発熱量		
—	—	—
排出係数		
CF_{fuel}	<ul style="list-style-type: none"> Jクレジット制度のデフォルト値を用いる。変更があった場合は、変更後の値を確認して用いる。 	清水 寛
$CF_{\text{electricity, t}}$	<ul style="list-style-type: none"> Jクレジット制度のデフォルト値を用いる。 	清水 寛

7 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
EL _{Pj}	—		
60,588 kWh (2016)		0.516 kg-CO2/kWh (2016)	31.3 tCO2
237,214 kWh (2017)		0.496 kg-CO2/kWh (2017)	117.7 tCO2
236,947 kWh (2018)		0.496 kg-CO2/kWh (2018)	117.5 tCO2
EM _{Pj}			266.5 tCO2

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
Q _{heat, BL} 38,702.5 GJ	—	0.0708 tCO2/GJ	2,740.1 tCO2
EM _{BL}			2,740.1 tCO2

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
—	—	—	—
LE			0 tCO2

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	2,740.1 tCO2
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{Pj}	266.5 tCO2
リークージ排出量 (7.3)	LE	0 tCO2
温室効果ガス排出削減量	ER	2,473 tCO2

8 省エネルギー量

	モニタリング期間 (2017年1月1日 ~ 2019年3月31日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)		原油換算 (kl)		
	単位	ベースライン	実績	ベースライン	実績	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン - 実績 (①-②)
A重油	kl	989.8	0	38,703	0	998.5	0	998.5
購入電力	kWh	0	534,749	0	5331.4	0	137.6	-137.6

$$\underline{\text{省エネ量}} = 998.5 \text{ (kl)} - 137.6 \text{ (kl)} = 860.9 \text{ (kl)}$$

9 再生可能エネルギー利用量

該当なし